



## 修学旅行生馬の手入れ挑戦

### 日高王国推進協 最後の受け入れ

【浦河、様似】兵庫県立篠山東雲高の2年生19人が修学旅行で浦河、様似両町の軽種馬牧場や漁家などに滞在した。馬の手入れやコ

牧場で馬のブラッシングを体験する篠山東雲高の生徒たち

推進協議会」の事業で13、15日に実施。同協議会は来年度で解散予定で、今回は最後の受け入れとなった。

同校が参加するのは昨年に続き2回目。浦河町西幌別の種牡馬繋養牧場「イーストスタッド」には男子生徒3人が宿泊し、馬のブラッシングやえさを入れるおけを洗う作業を手伝った。

さん(16)は「初めて引き馬などを行い、地元ではできない新鮮な体験ができた。もともと馬が好きだったので、馬に関わる仕事に興味を持つきっかけにもなった」と話した。

同協議会は2011年度から修学旅行生の受け入れを開始。今回を含め、西日本を中心に計3199人の生徒が訪れた。しかし新型コロナウイルスの影響で参加校や受け入れ家庭が減少し、事業の終了を決めた。

最終日の15日、両町内でそれぞれ解散式が行われ、

2022年9月22日

北海道新聞

生徒の代表が「北海道の良いところをたくさん知ることができました」と受け入れ先に感謝の言葉を述べた。同校の臼井和彦校長は取材に対し「事業が終わる

のは残念だが、生徒が将来の仕事を考えるうえでも貴重な経験ができたはず。今後も何らかの形で、この地域とのつながりを保ちたい」と話した。